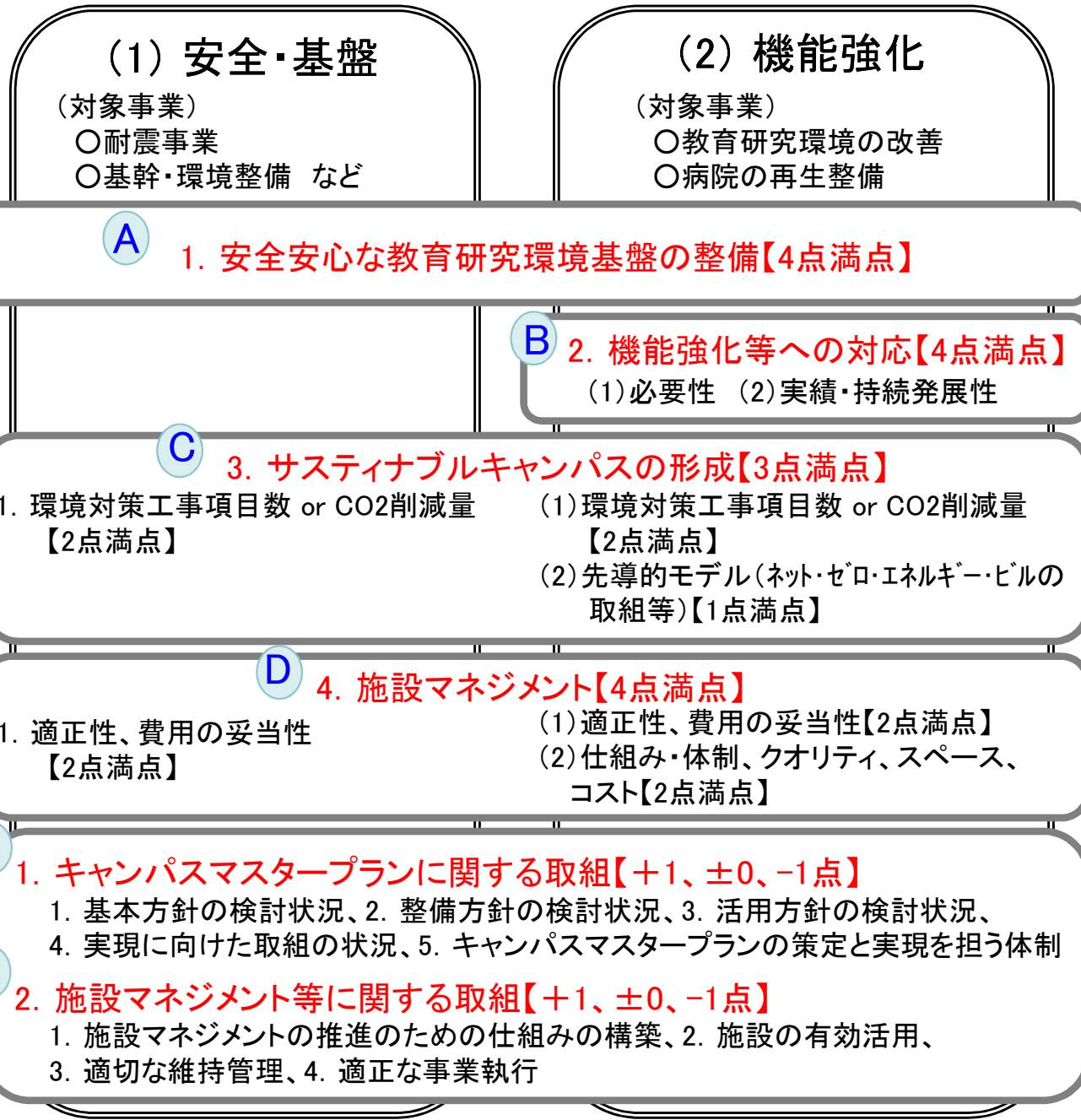


各評価項目の評価結果等について

(1) 個別評価

(2) 全体評価



A	【1. 安全安心な教育研究環境基盤の整備】 a:586(84%) b:100(14%) c:10(2%) [昨年 a:426(82%) b:83(16%) c:8(2%)]
B	【2. 機能強化等への対応】 a:159(53%) b:124(42%) c:16(5%) [昨年 a:95(37%) b:139(55%) c:20(8%)]
C	【3. サステイナブルキャンパスの形成】 (1)環境対策工事項目数 or CO2削減量 a:615(94%) b:19(3%) c:20(3%) [昨年 a:457(94%) b:19(4%) c:11(2%)] (2)先導的モデル(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の取組等 a:16(5%) c:283(95%) [昨年 a:7(3%) c:247(97%)]
D	【4. 施設マネジメント】 (1)適正性、費用の妥当性 a:362(52%) b:275(40%) c:59(8%) [昨年 a:236(46%) b:229(44%) c:52(10%)] (2)仕組み・体制、クオリティ、スペース、コスト a:152(51%) b:111(37%) c:36(12%) [昨年 a:83(31%) b:(設定なし) c:182(69%)]
E	【1. キャンパスマスタープランに関する取組】 a:1(1%) b:40(44%) c:50(55%) [昨年は全てc評価。補正後は以下の通り。 (補正後) 昨年 a:0(0%) b:68(75%) c:23(25%)]
F	【2. 施設マネジメント等に関する取組】 a:1(1%) b:90(99%) c:0(0%) [昨年 a:1(1%) b:88(99%) c:0(0%)]

(注) 上図の昨年度の評価数に一昨年度評価Sを引き継いだものは含まないため、昨年と今年のものでは事業総数の前提が異なる。 1

平成30年度評価を踏まえた今後の方向性について

個別評価

<課題>

3. サステナブルキャンパスの形成

(1)環境対策工事項目数 or CO2削減量【2点満点】

ほとんどの事業で何かしらの環境対策を実施しているため、aの割合が非常に多い。

(2)先導的モデル(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の取組等【1点満点】

aの割合が非常に少ない。先導的な取組により追加的コストが生じる場合が多いため、aの増加は難しいのではないか。

2. 機能強化等への対応

(1)必要性、(2)実績・持続発展性の記載が混在している事業が多い。大学等によって、記載や参考資料の量に差が大きい。

全体評価

1. キャンパスマスタープランに関する取組【+1、±0、-1点】

昨年度の低評価を受けて、評価内容の一部見直し、説明会での周知、記載要領の詳細化等を行ったが、本年度も大幅には評価は上がらず。

2. 施設マネジメント等に関する取組【+1、±0、-1点】

昨年度の評価がbに集中し、大学間に差がつかなかったため、説明会での周知、記載要領の詳細化等を行ったが、本年度も同様の結果となった。

総合評価

<今後の方向性>

例えば、以下のような見直し(案)などを検討

3. (1)全体評価の施設マネジメントにおいて、大学全体の環境対策に資する取組として評価
- (2)評価の基準等は変更せず、+αの項目として満点の外数として計上

例えば、以下のような見直し(案)などを検討

- フォーマットを見直すとともに、枚数に制限を設ける。

例えば、以下のような見直し(案)などを検討

- 各大学等に詳細な評価結果等を伝え、助言等を行う。
- 記載が難しい点などについて大学等へヒアリングを行い、記載要領に反映。また、必要に応じて評価基準等を見直す。説明会などを通じて周知。

例えば、以下のような見直し(案)などを検討

- 各大学等の取組の差が適切に評価に反映されるよう評価基準等を見直す。
- 各大学等に詳細な評価結果等を伝え、助言等を行う。
- 記載が難しい点などについて大学等へヒアリングを行い、記載要領に反映。説明会などを通じて周知。

◆ 総合評価の満点の点数、SABC評価の各点数については、個別・全体評価の今後の見直しを踏まえ、必要に応じて見直す。